



2021(令和3)年4月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15

TEL/06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください

<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

新型コロナウイルス
感染症対策について

これからゴールデンウィークが始まり、会食や移動の機会が増える可能性があります。患者さん・ご家族及び来院される皆様は、引き続き感染対策の基本である手指衛生とマスクの適切な着用の徹底をよろしくお願いいたします。本院職員においても、今後も大阪大学の活動基準に従い、医療機関に従事する職員としての自覚を持ち、引き続き日常生活から感染対策に努めてまいります。また、新型コロナウイルスワクチンの接種も開始されておりますが、ワクチン接種をすれば、感染対策を行わなくてよいということにはなりません。新型コロナウイルスワクチンの効果は100%ではない。未接種の方が多い現状では、感染対策は大変重要となってきます。今シーズン、インフルエンザやノロウイルスなど例年冬季に流行する感染症の流行がなかったことはご存じかもしれませんが、基本の感染対策の効果によるものとも考えられます。日ごろから、手指衛生、マスクの適切な着用を引き続きお願いいたします。



医療従事者対象ワクチン接種会場

再開発計画「統合診療棟」2025年運用開始



西尾章治郎総長(右)と土岐祐一郎病院長

医療ニーズや診療機能の高度化・多様化を受け、本院での再開発計画や新型コロナウイルス感染症対策などについて、大阪大学の西尾章治郎総長と土岐祐一郎医学部附属病院長が対談しました。

西尾総長 本学が吹田に移転してから、早いもので25年以上が経ちます。附属病院の再開発計画は今の時代に合った新しい形への変化が求められていることだと思います。

土岐病院長 医療の高度化、集中化によって入院期間は短く、済むようになりましたが、

逆に検査数、手術数、内視鏡治療や放射線治療の数は増えました。病棟部門と診療部門のバランスが変化し、診療部門のウエートが大きくなりました。現在、外来・中央診療棟の北側に地上8階、地下2階の「統合診療棟」という新棟を建設し、2025年の運用開始を目指しています。

総長 阪大病院に新しい診療棟が建つというのは、本学にとって大きなニュースです。

統合診療棟には、主に現在の外来部門と中央診療部門の機能を集約させると伺っています。外来部門では診療科の垣根を越えた「横断的診療ブロック」に再編して診療機能を強化することです。

病院長 受付や会計計算も診療ブロックごとに行い、診察や会計の待ち時間の短縮を図ります。

総長 中央診療部門では内視鏡、放射線治療、心臓カテーテルといった、患者さんへの負担がより少ない「低侵襲診療」の機能強化を行い、手

新型コロナウイルス
感染症対策

術室も増設するのです。

病院長 眼科の外来・病棟・手術機能が一体となった「アイセンター」を創設します。現行の「総合周産期母子医療センター」は外来・病棟・分娩機能を一体化して診療機能強化を進めます。また、患者相談部門や支援部門を集約して「患者包括サポートセンター」を新設します。

総長 新型コロナウイルス感染症対策では、大阪大学一丸となって対策や支援体制の構築を行ってきました。病院の皆さんのご尽力に総長として心から感謝申し上げます。

病院長 院内ではマスクの着用と手洗いを徹底して、体調不良の職員は早めに休んでPCR検査を受けます。外来や入院中の患者さんも主治医が新型コロナウイルス感染症を疑った場合は、迅速に検査ができるように24時間体制を整えています。また、入院患者さんへの面会は制限を設けています。

総長 新型コロナウイルス感染症に罹患した患者さんの受け入れ体制はいかがでしょうか。

病院長 本院は大阪府から、人工呼吸器を必要とする新型

コロナウイルス感染症の重症患者を重点的に診療する役割が与えられています。新型コロナウイルス感染症の診断までを高度救命救急センターで初療対応し、続いて集中治療部(ICU)で本格的な治療を施します。本院のICUは臓器移植などの高度医療にも対応できる。新型コロナウイルス感染症の重症患者にも高度な医療を提供できます。一方で、PCRやCTで迅速に新型コロナウイルス感染診断を行う、大阪府設定の「トリアシ病院」としての役目も担っています。

AI
ホスピタル

総長 阪大病院は内閣府の

AI基盤拠点病院AIホスピタル事業にも採択されています。

病院長 一昨年4月に本院に設置された「AI医療センター」が中心になり、プロジェクトを進めています。AI(人工知能)による電子カルテへの音声入力システム、入院時の問診を支援するAIチャット端末のほか、手術の事前説明を受ける患者さんの表情や声のトーンなどからAIが納得度を分析してその結果をリアルタイムに医師にフィードバックするシステムなどです。

総長 私自身の専門分野であるデータ工学の医療分野への実践例として興味深く思います。

病院長 AIは医療のあらゆる分野で活用が進み、レントゲンや内視鏡、病理といっ

新 看護部長が抱負を語る



患者の望む最善の看護を

看護部長(副病院長)

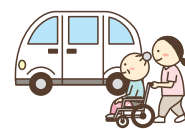
岩崎 朋之

越村利恵前看護部長が10年間にわたり看護部のトップマネジャーとして、「患者に寄り添う看護」を柱にさまざまな取り組みを推進し、成果を積み上げてきました。私もこの「患者に寄り添う看護」を基本的な柱に据え、患者が望む看護とは、患者にとって最善の看護とは、を常に考えたマネジメントを行っていくと考えています。

今は、歴代の看護部長が繋いでこられたバトンを受け継ぎ、

た画像診断の分野では専門医をしのぐといわれています。ただし、患者さんや医療従事者へのサービスという観点から、音声入力によるカルテ記載の高速化、院内を移動するロボット、顔認証による面会制限などは、今後さらに推進していくことが必要です。

総長 本日は病院の現状だけでなく、未来像についても貴重な話を伺えて感謝いたします。

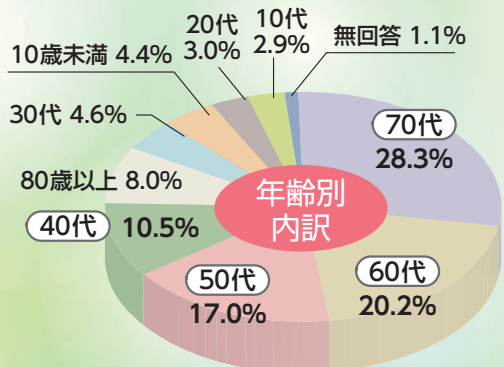
正面玄関前駐車場が
許可制になりました

正面玄関前駐車場の利用時は、利用証(大阪府等地方公共団体が移動に配慮が必要な方に発行するもの)が必要となります。なお、これまで同様、公安委員会が発行する「駐車禁止除外指定車標(歩行困難者等利用)」の提示でもご利用いただけます。

(令和3年4月1日就任)

入院患者さん

平均 **93.3%** **満足**
(回答数=657)



調査対象の内訳

入院患者さん 満足度ランキング

ベスト5	1位	職員の身だしなみ	99.7
	2位	看護師の態度や言葉遣い	98.9
	2位	安全な治療・結果	98.9
	4位	リハビリ職員の態度や言葉遣い	98.8
	5位	入院中に受けた看護	98.7
ワースト5	1位	インターネット環境	74.8
	2位	面会時間	76.2
	3位	トイレや浴室	78.4
	4位	個室料金	79.7
	5位	苦情相談窓口設置場所のわかりやすさ	82.5



令和2年度 満足度調査

結果発表!

外来患者さん、入院患者さんを対象とした満足度調査にご協力をいただき、ありがとうございました。このたび令和2年度の調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

●調査期間

外来：令和2年8月31日～9月4日の5日間
入院：令和2年10月1日～10月21日の21日間

●調査結果

外来患者さんの90.1%、入院患者さんの93.3%の方に、「満足」「やや満足」のご回答をいただきました。満足度の低い項目は、外来では「会計や診察の待ち時間」「駐車場整備等」、入院では「インターネット環境」「お見舞いや面会時間」「トイレ・浴室設備」でした。

これからも患者さんにとって心地よく、治療に専念できる環境を整えていきたいと考えております。より多くの患者さんのご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。



●具体的なコメント例

入院患者

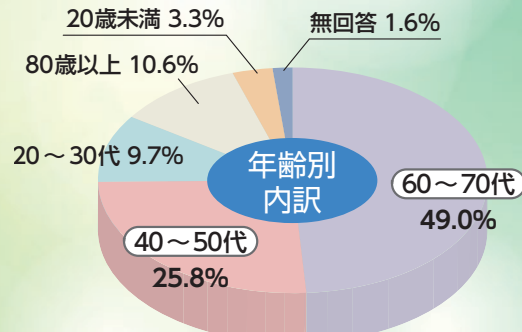
- ・入院、手術すべてに満足しています。
- ・看護師さんはとても優しい方が多くとても安心出来ました。
- ・先生も大変優しく質問に答えて頂き心強く思いました。
- ・リハビリのスタッフの方は優秀で意欲的で思いやりがあると感じます。
- ・看護師の方々の対応がとても素晴らしいです。
- ・入院・手術の不安を担当医、看護師の方々が優しくサポートしてくれました。
- ・フリーWi-Fiが繋がりにくい。
- ・家族との面会が不便だった。
- ・トイレ、シャワー室などはもっと清潔感が欲しいです。
- ・個室が少なく料金が高額です。

外来患者

- ・医師、看護師の方々も優しいし説明もわかりやすい。
- ・医師は説明が丁寧でとても安心できます。
- ・レントゲンのスタッフの方がとても親切でした。
- ・施設の古さは否めませんが、清潔にされているのでそれほど気になりません。
- ・医療費後払いサービスは待ち時間が少なくて大変満足しています。
- ・診察、会計の待ち時間が長い。
- ・あとどれくらい待つのか知らせて欲しい。
- ・待合の椅子が少ない。
- ・休憩、昼食を取る場所がない。
- ・駐車場が時間帯により混む。

外来患者さん

平均 **90.1%** **満足**
(回答数=2,822)



調査対象の内訳

外来患者さん 満足度ランキング

ベスト5	1位	医師のプライバシー配慮	97.8
	2位	診察室の清潔かつ整理整頓	97.5
	3位	看護師の態度や言葉遣い	97.4
	3位	看護師のプライバシー配慮	97.4
	5位	技師の態度や言葉遣い	97.2
ワースト5	1位	診察までの待ち時間	59.7
	2位	駐車場の広さや台数	60.1
	3位	会計の待ち時間	64.7
	4位	会計待ちでの声掛け等の配慮	80.4
	5位	診察待ちでの声掛け等の配慮	80.5



院外処方箋がわかりやすく

4月から 使用期限、検査値を記載

使用期限を明示

化学療法レジメン名を表示

検査値等の臨床情報を表示

処方箋サイズが A5から A4サイズに変更

院外薬局への情報等も追加

令和2年の医薬品医療機器等法(薬機法)改正により地域薬局の概念が大きく変わりました。薬局は「薬剤及び医薬品の適正な使用に必要な情報の提供及び薬学的知見に基づく指導の業務を行う場所」と定義され、地域薬局の薬剤師も服用期間を通じて患者さんの薬学的管理が必要になっていきます。

本院では地域の基幹病院としてこれらの薬局との連携を図るべく検討を進めておりましたが、その一環として処方箋を地域薬局との連携ツールの一つと位置づけ、4月から記載内容を整備しました。

処方箋の使用期限を日付で明記するなど患者さんにもわかりやすい表示にするほか、安全性向上のため地域薬局が患者さん一人一人の臨床情報に合わせた服用量の確認や副作用の早期発見のために必要な検査値も記載します。

地域薬局の薬剤師とも定期的に勉強会を開催し、本院でも処方箋を介して病院と地域薬局が一体となって医療安全に取り組む新しいカタチの地域医療を始めます。

今後、チーム医療の一員として患者さんの安心・安全な薬物療法の提供に努めていきますので、フレッシュな薬剤師レジデントも含め薬剤部をどうぞよろしくお願いいたします。

「薬剤師レジデント」制度 開始
卒後2年かけ知識と技術養う

院内製剤室での研修風景

薬剤部では今年度より薬剤師レジデント制度をスタートさせます。この制度は、卒後研修を通じて幅広い知識と技術を持った薬剤師を育てる教育制度として給与を保証します。

育プログラムで、今月から採用された薬剤師レジデントがトレーニングを開始しています。

当部ではこれまで卒後研修として研修生制度を採用し、研修期間(2ヵ月)の間に薬剤師としての基礎教育を行い、本院の職員以外にも大阪府下全域・周辺地域の病院へも長年にわたり数多くの薬剤師を輩出してきました。しかし、近年、薬剤師にはより深い知識・技能や幅広い経験が求められ、積極的にチーム医療に参画し、患者さんのために安全・安心な薬物療法を提供する必要があります。求められている専門性の高い薬剤師の育成のために、新たな卒後研修制度として給与を保証します。

から2年間トレーニングを行うことを目的としています。このような制度を導入する施設も年々増えつつあり、全国的に注目されています。

薬剤師レジデント制度の開始に際し、多職種・多部門で構成する薬剤師レジデント研修管理委員会の設置を行い、研修プログラムの運用や管理等の体制整備を行い、多数の病院に広く人材を紹介する役割も継続していきと考えています。

今後も、チーム医療の一員として患者さんの安心・安全な薬物療法の提供に努めていきますので、フレッシュな薬剤師レジデントも含め薬剤部をどうぞよろしくお願いいたします。

新 診療科長等紹介



●リハビリテーション科長
●リハビリテーション部長
おかだ せいじ
岡田 誠司

このたび、リハビリテーション科長並びに部長を拝命しました。リハビリテーションは疾患のみならず患者さんの生活や社会活動に深く関わるため、今後益々重要性が高まって

いく部門です。当部門ではリハビリテーション専門医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を中心として、患者さんの運動機能障害や日常生活活動障害、コミュニケーション障害などの機能回復と改善に少しでも貢献できるよう、スタッフ一丸となって努力していきます。何とぞよろしくお願い申し上げます。(リハビリテーション部長令和3年2月1日就任、リハビリテーション科長同年4月1日就任)



●輸血部長
かしわぎ ひろかず
柏木 浩和

この度、輸血部長を拝命いたしました。輸血は長年の先人の努力により、非常に安全なものとなってきましたが、単純なミスが大きな医療事故につながる重要な領域です。従来

からの輸血部のモットーである「良質で安全な輸血」を今後も実践してまいります。また輸血部は、CAR-T療法に代表される、今後おおいに発展が期待される細胞療法において、重要な役割を担っております。スタッフ一同、本院における先進的な医療の発展に貢献していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(令和3年4月1日就任)



●看護部キャリア開発センター長
いわさき ともゆき
岩崎 朋之

看護師に求められる役割は、多様化するとともに高度化していることから、教育の果たす役割が非常に重要です。看護部キャリア開発センターでは、看護師として専門性を更に

高める教育、よりよい療養環境を整えるための看護管理者に対する教育など、病院内外の看護師に広く教育の機会を提供し続けています。教育を通じて個々の看護師のキャリア開発を支援することで、質の高い看護を提供できます。患者さんやご家族に信頼と安心を届けられるよう、看護師の育成に今後も引き続き努めていきたいと考えています。

(令和3年4月1日就任)



●ハートセンター長
さかた やすし
坂田 泰史

本院は、日本において心臓移植を行える数少ない病院の一つであり、循環器医療の最後の砦としての使命を帯びております。そのために、循環器内科と心臓血管外科、さらに麻

酔科や高度救命救急センター、腎臓内科など他の専門科、医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士など広範囲の職種が強固に連携していかなくてはなりません。

今まで以上に力強くかつ優しいハートセンターにしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(令和3年4月1日就任)



●事務部長
やまごし としあき
山腰 俊昭

このたび、事務部長を拝命しました。前職は東北大学病院事務部長で、それ以前は山形大学、神戸大学などの国立大学病院で勤務をしてまいりました。

大阪大学医学部附属病院は、日本の医学・

医療をリードし、特に未来医療の実践ではフロントランナーに位置しております。その組織の一員に加えていただけたことは誠に光栄です。もとより微力ではありますが土岐病院長をはじめ執行部の先生方のご指導をいただきながら、一生懸命頑張る所存ですので皆様方のご支援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

(令和3年4月1日就任)

令和3年度

「病院教授」の称号付与について

病院教授の称号は、大阪大学医学部附属病院における診療・研究・教育の充実のため、特に臨床面で優れた業績が認められる者に対して付与しているものです。

令和3年度は下記の24名に「病院教授」の称号を付与することを決定しました。

番号	診療科等名	氏名	職名
1	循環器内科	彦惣 俊吾	准教授
2	腎臓内科	高島 義嗣	講師
3	糖尿病・内分泌・代謝内科	大月 道夫	准教授
4	呼吸器内科	武田 吉人	准教授
5	血液・腫瘍内科	横田 貴史	准教授
6	老年・総合内科	山本 浩一	准教授
7	心臓血管外科	戸田 宏一	准教授
8	消化器外科(下部消化管)	小林 省吾	准教授
9	乳腺・内分泌外科	直居 靖人	准教授
10	眼科	松下 賢治	准教授
11	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	今井 貴夫	准教授
12	整形外科	村瀬 剛	准教授
13	神経科・精神科	橋本 衛	准教授
14	麻酔科	大瀧 千代	講師
15	産科婦人科	富松 拓治	准教授
16	小児科	別所 一彦	准教授
17	泌尿器科	今村 亮一	准教授
18	臨床検査部	日高 洋	准教授
19	放射線部	巽 光朗	准教授
20	集中治療部	内山 昭則	准教授
21	総合周産期母子医療センター	北畠 康司	准教授
22	高度救命救急センター	小倉 裕司	准教授
23	臨床工学部	高階 雅紀	講師
24	化学療法部	水木満佐央	准教授

※上記の称号付与者の職名等は令和3年4月1日現在のものです。



横浜市立大学附属病院
後藤 隆久 病院長

「令和3年度国公私立大学附属病院医療安全セミナー」を昨年10月23日に開催しました。本セミナーは、全国の大学病院に所属する医療安全の専門家らに最新の知見を紹介するため、文部科学省の後援で平成16年から毎年本学が主催しています。初のオンライン開催となり、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、事務職員など、計520名と例年より多くの参加登録がありました。

今年度のプログラムでは、新型コロナウイルス感染症に関連して6名の講師による「ウィズコロナ時代の新たな教育法の開発」「COVID-19対応にみられるレジリエンス」の2セッションを中継しました。オンラインツールを活用した教育法と実践例について、またCOVID-19という擾乱に対して迅速に大学病院としての役割を果たすための院内マネジメントや情報発信を通じた地域との連携についての講演がありました。参加者からは、平時と異なる状況下での医療の質・安全の教育とマネジメントについて広い知見を得ることができた大変好評でした。

国公立大学附属病院 医療安全セミナーを開催

今年度の標語が決定

接遇・マナー向上目指して

3月1日、病院長室において、土岐病院長から4名の優秀標語作成者に表彰状と副賞が授与されました。

患者サービス検討委員会では、職員の一人一人が患者さんの立場に配慮できるよう努めるとの主旨で、接遇・マナー向上に関する標語を掲げております。

このたび、院内に標語を募集し、患者サービス検討委員会で検討の結果、次のとおり優秀作品が決定いたしました。

令和3年度

優秀標語表彰式

「手洗いと 消毒・マスクで 感染予防」

(未来医療開発部 臨床研究センター 神代 薫さん)

「聴く力 ニーズをキャッチ 繋げる医療」

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科 加藤 智絵里さん)

「声かけと 笑顔が運ぶ 安心感」

(医事課医療安全係 杉山 幸穂さん)

「ひと言で 失う信頼 得る信頼」

(管理課電気係 寄橋 知希さん)



表彰状を手に笑顔を見せる受賞者。(前列左から)加藤さん、土岐病院長、神代さん、(後列左から)岩谷医事課長、杉山さん、寄橋さん、越村看護部長

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

3/19 (金) 令和2年度の防災訓練を実施しました



上町断層による直下型地震が平日の診療時間内に発生したとの想定で、災害対策本部の運用訓練及び新たに導入した傷病者情報共有リストの運用訓練を行い、本院感染制御部からコロナ禍における災害対応についての説明がありました。

本院は大阪府から災害拠点病院に指定され、災害発生時に重傷者の収容・治療等を行う役割を担っているため、今後も災害対策に努めていきたいと思ひます。

(写真は災害対策本部会議の様子)

3/26 (金) ~29 (月) 未来医療フォーラム

西田幸二眼科長、朝野和典感染制御部長、澤芳樹心臓血管外科長による本院の未来医療への取り組みについての講演を事前申込者限定でweb配信しました。多くの方々に視聴いただき、再生医療や新型コロナウイルス感染症への理解が深まったと大変好評でした。

もっと社会に広く発信するべきとのご意見もいただきましたので、講演動画を本紙82号の読者に向けて再公開します。ぜひご覧ください。(動画3)

3/29 (月) 令和2年度のホスピタリティ賞表彰式



ご意見箱に寄せられた謝意の多かった部署を表彰しました。

- ★東13階病棟 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- ★西12階病棟 泌尿器科
- ★栄養管理室

看護師特定行為研修1期生が修了しました



医師の指導を受ける3人の研修生

昨年度より開講した研修は臨地実習を経て3月末に修了しました。3名の研修生はそれぞれ動脈血気関連、人工呼吸関連、栄養水分関連の3区分の特定行為を習得し、今後は患者さんへのタイムリーな医療の提供をめざします。

動画はこちら

QRコードから関連動画をご覧ください



動画1

神経科・精神科



動画2

超音波検査センター



動画3

未来医療フォーラム



神経科・精神科

神経科・精神科は、一般外来のほか、「神経心理外来」「統合失調症専門外来」「発達障害・児童思春期外来」「睡眠外来」の四つの専門外来で診療にあたっています。

神経心理外来の対象は、認知症の原因となるアルツハイマー病などの脳変性疾患や、脳腫瘍をはじめとする脳外科疾患、老年期の幻覚妄想状態などの精神疾患です。当外来における認知症の診療は評価が高く、就労中の若い患者さんも多く来院されています。「共生と予防」が現在の認知症政策の基盤であり、当外来は、診療だけでなく認知症を発症した患者さんが安心して自宅や地域で暮らしていける生活環境の調整までを、多職種の専門家がコーディネートしています。

統合失調症専門外来は、難治性の患者さんの入院治療も多く行っています。通常の薬物療法で症状が改善しない、あるいは副作用が強い患者さんに対する、有効性の高い薬剤の投与など、副作用に留意しながら実施しています。また、紹介動画も是非ご覧ください(本ページ左下QRコード)。



心臓超音波検査の様子と3D画像はこちら (動画2)

栄養マネジメント部長 おすすめ

～スマイル御膳～

下村伊一郎部長のカレーシリーズ、今回は今までありそうでなかった「カレーうどん」でした。昆布、かつお節、煮干しから丁寧にだしを取り、旨味たっぷりの中にスパイスをきかせて仕上げました。菜の花やタケノコなどの春野菜をばりりと揚げた天ぷらやグリル野菜の盛り合わせをうどんに乗せたり、米飯をカレーに入れたり、患者さんお好みの食べ方で召し上がっていただきました。ミモザサラダや旬の苺のデザートなどもあわせて、春らしさあふれるメニューに、皆様からは「春らしい彩りがきれいで、優しい献立だった」「治療の影響で食べられていなかったけど、久々に完食した」などうれしい感想が多数寄せられました。



- #### メニュー
- ・出汁香る具沢山カレーうどん
 - ・春野菜の天ぷら盛り合わせ
 - ・春の華やかミモザサラダ
 - ・苺のデザート

四つの専門外来で対応 認知症に生活環境調整も

動画1



統合失調症の治療には患者さん本人の自覚が重要であるため、検査結果などを十分に説明し、理解を深めていただくよう心がけています。

発達障害・児童思春期外来は、自閉症スペクトラム症やADHD(注意欠如・多動症)などの発達障害、PTSD、摂食障害、適応障害などを診療しています。近年、発達障害の患者さんが増加しており、小児科が診療していた幼稚園児や小学生の患者さんを、当外来が引き継ぐことで、子どもから大人まで連続性のある医療が可能となっています。

睡眠外来では、睡眠異常に悩む患者さんに対して、終夜にわたる睡眠ポリグラフ検査などを行い、睡眠時無呼吸症候群、過眠症、レム睡眠行動異常症などを診断しています。当科は、認知機能や身体機能が低下した入院患者さんに、作業療法士がリハビリを実施したり多職種で退院前に自宅を訪問するなど、退院後も患者さんが望む生活を継続できる治療計画を立てています。診断や治療が難しい患者さんも上記専門外来で積極的に受け入れていますので、かかりつけ医を介して受診してください。

超音波検査センター

超音波検査は、痛みなどの負担がなく、患者さんの身体に優しい検査方法です。当センターでは、院内の腹部、頸部・末梢動脈、心臓の超音波検査を集約して実施しています。

現代医療は複数の診療科がチームとして連携した診断が不可欠です。検査を集約することで、各部位の検査結果を即座に共有し、疾患を全体的に把握したうえで治療できます。また超音波検査機器の一

元管理により、機器を効率的に運用でき、最新の超音波機器の導入が可能となっています。今後、乳腺・前立腺の超音波検査も、当センターに集約される予定です。

今、超音波検査技術はめざましく進歩しており、例えば腹部の肝臓超音波エラストグラフィでは、肝臓の硬さを測定でき、肝硬変などの診断に役立ちます。また、超音波専用の造影剤を用いた検査により、肝臓の検出・診断もできます。

胸部では、心臓に負荷(運動や薬剤)を加えて働きをみる負荷心臓超音波検査や、心臓のすぐ後ろにある食道側から心臓の弁の状態などを観察する経食道心臓超音波検査も、積極的に実施しています。

超音波検査は大きな装置が不要で、3D(長さ・幅・奥行き)の画像などもリアルタイムで得られるため、近年、検査数が増加しています。検査技師には本院の先進治療を理解したうえで検査を行う知識と技術が求められています。超音波評価の基礎に始まる段階的教育や、医師や臨床検査技師による研修会も定期開催してスキルアップを図っています。さらに公益社団法人日本超音波医学会が認定する認定超音波検査士の資格取得も推奨しサポートしています。

高度救命救急センターがクラウドファンディング

挑戦中

『「コロナ禍における安心・快適な患者搬送をめざして」～最後の砦を守る～』

本院ドクターカー用オリジナルアイソレーター作成費への寄附を募っています。

詳しくはこちら



<https://readyfor.jp/projects/handai-99>